

第2次真室川町観光振興計画

令和2年 3月

山形県真室川町・真室川町観光物産協会

目次

I 計画の策定にあたって	1
1 計画の策定の趣旨	
2 計画の位置づけ	
3 計画の期間	
II 観光を取り巻く状況と本町観光の現状と課題	2
1 観光を取り巻く状況	
（1）観光需要の変化	
（2）人口減少と少子・高齢化の進展	
（3）情報通信技術の飛躍的な発展	
（4）交通基盤の整備	
（5）国内の外国人旅行者の増加	
2 本町の観光の現状と課題	
（1）第1次真室川町観光振興計画目標値の検証	
（2）これまでの観光施策による成果と課題	
III 計画の目標と推進方針	7
1 観光振興の目標	
2 推進方針	
（1）観光資源の魅力向上	
（2）特産品・真室川ブランドの振興	
（3）ニーズの把握と情報発信	
（4）連携の体制づくり	
3 観光振興計画の目標数値	
IV 主要施策の展開	9
1 観光資源の魅力向上	
2 特産品・真室川ブランドの振興	
3 ニーズの把握と情報発信	
4 連携の体制づくり	

V 計画の実現のために 1 3

1 住民との連携と協働の強化

- (1) 住民の役割
- (2) 観光関連事業者の役割
- (3) 真室川町観光物産協会の役割
- (4) 真室川町の役割

2 具体的行動について

- (1) 事業の具体的推進
- (2) 進行管理の推進
- (3) 観光戦略推進会議（仮称）の設置
- (4) 真室川町観光物産協会の機能強化

【資料】 1 5

滞在型「まむろがわツアー」モデルコース
計画策定の経過

I 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

真室川町では平成27年3月に策定した第1次真室川町観光振興計画を施策展開の基本として、5年間にわたり地域活性化へつながる観光施策に取り組んできました。

今、観光を取り巻く環境は、団体旅行から個人旅行への移行が一段と進行し、インターネットによる情報収集も多様化しており、動画配信サイトやSNS※等を活用した情報発信が普及していることから、観光客に選ばれるためには、真室川町が持つ独自の資源を連携させて魅力ある観光商品として磨き上げ、多様化された情報発信手段を効果的に活用した発信が求められています。

そうした中で、新たな観光資源の発掘や冬季スポーツイベントの開催など各団体・個人の地域活性化へ向けての取組みも進められており、「訪ねてよし、住んでよしの『あがらしやれ真室川』」を町民が実感できる施策の展開方向を示すため、「第2次真室川町観光振興計画」を策定します。

※SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）…インターネットのネットワークを通じて、人と人をつなぎコミュニケーションが図れるように設計された会員制サービス。

2 計画の位置づけ

第2次真室川町観光振興計画は、観光振興の基本的方向を定めると同時に真室川町観光物産協会や関連団体や民間事業者、町民がそれぞれの立場にたって取り組む指針であり、真室川町総合計画を具体化するための個別計画として位置づけるものです。

3 計画の期間

令和元年度の策定とし、変化の激しい社会情勢に対応するため、令和2年度から令和6年度までの「5年間」とし、適宜見直しを行うものとします。

Ⅱ 観光を取り巻く状況と本町観光の現状と課題

1 観光を取り巻く状況

(1) 観光需要の変化

日本人の旅行形態は、団体旅行から個人旅行へとシフトしており、近年は個人旅行が8割を超えています。また、訪日外国人の旅行形態を見ても個人旅行が7割を超えています。旅行形態の個人旅行化に伴い、これまで以上にその地域ならではのモノや体験に対するニーズが高まることが予想されます。

(2) 人口減少と少子・高齢化の進展

少子高齢化による定住人口の減少は、地域経済に大きな影響を及ぼすことが予想されます。少子化が進行しテーマパーク等の子供向け観光は衰退傾向にある半面、自由時間の多い高齢者が増えることから、高齢者の受入環境整備や旅行意欲の高いアクティブシニア層の誘客強化が重要となってきます。

(3) 情報通信技術の飛躍的な発展

スマートフォン等の各種情報端末の普及によって、観光情報をはじめとした様々な情報の入手が瞬時に可能となり、加えて、SNSにより旅行者との間で双方向のコミュニケーションが図れるようになりました。

また、旅行するにあたって参考とする情報源では、平成20年度以降はインターネットが最多となっています。パンフレット、ガイドブック等の紙媒体も引き続き主要な情報源であるものの、インターネットの重要性は高まる一方となっています。

(4) 交通基盤の整備

自動車道については、東根市から南側が高速道路で首都圏と直結するとともに、山形市、仙台市、福島市の南東北3県の県都が結ばれることとなりました。

空港関連については、山形空港では名古屋便の2便化、札幌便の復活となり、庄内空港では成田空港との運航が開始されました。

港湾関係については、酒田港で平成29年に本県初となる外航クルーズ船の寄港が実現し、年々寄港する外航クルーズ船は増加しています。

(5) 国内の外国人旅行者の増加

平成30年の訪日外国人旅行者数は、初めて3,000万人を超え、過去最高の3,119万人となりました。日本はこれまで訪日外国人旅行者よりも出国日本人数の方が多い状況が続いていましたが、平成26年にそれが逆転し、年々その差は大きくなっています。

2 真室川町の観光の現状と課題

(1) 第1次真室川町観光振興計画目標値の検証

指標となる年間観光客数は、ふるさとプレミアム宿泊券事業等の影響により平成27年度で目標値間近の98.6千人となりましたが、平成28年度の1月に産直施設が閉店したこと、ふるさとプレミアム宿泊券事業による宿泊客の増加が事業年度のみの一時的なものにとどまったことから減少に転じ、目標には届かない結果となりました。

○増加要因

- ・国の「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金」を活用した「ふるさとプレミアム宿泊券事業」により町内宿泊施設の利用者が約5.4千人増加しました。（平成27年度）
- ・全国中学校スキー大会が真室川町で開催となり、秋山スキー場の利用客が約2.0千人増加しました。（平成28年度）

○減少要因

- ・真室川町地域産物加工販売施設で、平成14年から販売事業を行っていた産直組織が、事業撤退したことにより約7.8千人の減少となりました。（平成29年度）
- ・降雨のため加無山林道、前森山林道が通行不可となったことにより、山岳観光客が約1.3千人減少しました。（平成30年度）
- ・JR駅長おすすめの小さな旅が終了し、約0.1千人の減少となりました。（平成28年度）

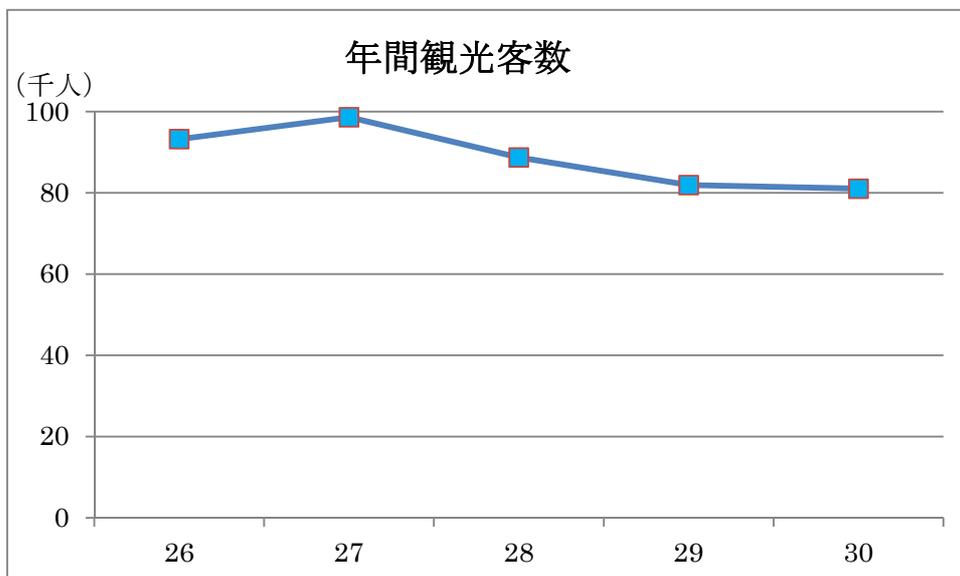
(表1：実績値と目標値)

項目	実績値 (H30)	目標値
年間観光客数 (県観光者数調査)	81.0 千人	100.0 千人

※県観光者数は山岳、温泉、スキー場、海水浴場、名所・旧跡、観光道路、道の駅、その他に分類される観光地を訪れた観光者数の総計となり、真室川町では以下の施設が該当します。

- ・加無山
- ・まむろ川温泉梅里苑
- ・産直まごころ工房
- ・歴史民俗資料館
- ・秋山スキー場

(表 2 : 年間観光客数の推移)



(2) これまでの観光施策による成果と課題

第1次真室川町観光振興計画を中心としたこれまでの観光施策による成果と課題について、以下の6つの項目ごとに示します。

①観光資源の発掘と育成

「地域ならではの」観光資源の発掘・磨き上げを図りながら、当面、効率的かつ効果的に観光誘客を促進するため、真室川町として地域の強みと思われる分野を重点的に売り出すこととし、地域のイメージアップやブランド力の向上を図ってきました。

○成果と課題

- ・「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金」を活用した「ふるさとプレミアム宿泊券事業」により町内宿泊施設の利用拡大を図りました。
- ・甕山の山開きにあわせ、女甕の大カツラの前で番楽を舞う取組みを開始しました。
- ・甕山、加無山、土倉の滝等真室川町が誇る自然資源へと続く林道は、大部分が未舗装であることから降雨等の自然災害の影響を受けやすく、距離も長いため、維持管理が困難です。
- ・伝承野菜や山菜、農林水産加工品等真室川町の豊かな食材や食文化が新たに真室川ブランドとして登録され、ブランド力が強化されましたが、他資源との連携した観光誘客までにはいたりませんでした。

②観光客ニーズの変化への対応

人々の観光に対するニーズやライフスタイルが多様化する中で、真室川町の豊かな自然等の観光資源を活用するとともに、地域の観光資源の再評価や発掘、ネットワーク化に努め、観光客が回遊しやすい周辺環境の充実を図りました。

○成果と課題

- ・外国人、高齢者、障がい者、家族連れ等、全ての国内外からの観光客が快適に観光できる環境整備を目指し、公衆トイレのバリアフリー化、無料Wi-fi設置による通信環境整備等に取り組みました。
- ・レンタサイクル、レンタカー等、観光客が自由に利用できる二次交通が未整備です。

③着地型観光の推進

近年、グリーンツーリズムやエコツーリズム、農家民宿、文化観光、産業観光、ヘルスツーリズム等の新たな旅行形態が注目されており、地域が主導して企画していく「着地型観光」の手法により旅行商品化を図ってきました。

○成果と課題

- ・豪雪地帯という地域特性、協賛として提供された町の特産品、会場での飲食店の出店等、真室川町の総力を結集して、冬季イベントを開催しました。
- ・「ものづくり」を通じた地域の活性化に繋げるため、さなぶり手仕事まつりが開催されました。
- ・冬季イベントには町外からも多くの参加者があり好評ですが、年間を通じたスポーツツーリズムへ発展させるなど、より波及効果が期待できる取組みが求められます。

④物産振興

地域の象徴としての役割を担うのが、食・伝統工芸等の特産品です。お土産や飲食店で活用することにより真室川町独自の個性を持つ特産品を世に送り出し、その普及を目指しました。

○成果と課題

- ・仙台市で「まむろがわ逸品展」を開催することで、県外の方に真室川町の特産品をアピールすることができました。
- ・販路拡大助成や旅費補助等、町内の物販事業者へ補助を行い、物産振興を図りました。
- ・大和市「全国ふるさとまつり うまいもの市」、荒川区「にっぽりまつり（春・秋）」等新たな物産展へ参加しました。

- ・遠方の物販に参加しても売り上げが伸びないという声があり、付加価値を高め、購買につなげるブランド戦略の充実が必要です。

⑤情報発信の強化

情報化社会の現代において、観光情報もその時流に乗ることが求められています。観光パンフレット・インターネットを活用し、より幅広い世代、地域へ様々な情報を発信するよう努めました。

○成果と課題

- ・訪日外国人観光客の全国的な増加に対応するため、外国語パンフレットを作成しました。
- ・山岳や巨木、滝等自然資源に至る経路の不通、崩落等の最新情報を観光客に届けるため、現地確認を実施のうえ、経路入口への看板掲示と、インターネットによる情報発信を行いました。
- ・Facebook、Twitterの活用、イベントチラシへのQRコードの掲載等、新たな通信手段による情報発信を展開しました。
- ・真室川町にどのような人が訪れ、何を感じ、求めているのかというニーズの把握が不足していることから、滞在・交流する町として選んでもらうための戦略的な情報発信ができていません。

⑥推進体制の強化充実

観光に訪れた方が接し、そのニーズを満たすのは現地の人であり、各種イベントを運営し成功に導くのは組織です。観光と物産を振興するにあたり最も重要な要素は、魅力ある人・主体的な組織づくりであると認識し、その部門別の組織強化を図り自立を目指しました。

○成果と課題

- ・山形空港、新庄駅、酒田港等交通施設でのキャンペーンや、首都圏旅行会社への観光資源PR等、最上地域全体で連携した観光事業を展開しました。
- ・交流拠点である梅里苑について、民間事業者等のノウハウを活用することにより、サービスの向上を図り、より効果的かつ効率的な管理運営を図るため、指定管理者制度を導入しました。
- ・真室川音頭全国大会、真室川音頭パレード等真室川音頭に関連したイベントについて、催行内容や手法の検討・改善を行いましたが、関連団体の人手不足、高齢化による影響は強く、更なる組織強化が必要です。

Ⅲ 計画の目標と推進方針

1 観光振興の目標

当町は山岳、巨木群、湖沼や湿原といった自然、国指定重要文化財等に代表される歴史、番楽等の伝承文化、伝統的な食文化、伝統的祭事、季節のイベントや真室川音頭等、幅広い分野での観光資源に恵まれています。これらの資源を時代のニーズに対応できよう磨き上げを図りながら誘客・交流をすすめ、地域のイメージアップとブランド化をすすめます。さらに、真室川町らしさに磨き上げ、町民全体のおもてなし力を向上させ賑わいの創出することにより、町民が「町が好き、楽しい」、来訪者が「来てよかった」「また来てみたい」「住んでみたい」と思う交流のまちづくりをすすめます。

2 推進方針

観光振興の目標を踏まえ、観光客・交流者数の増加、真室川ファン拡大を図るため、第2次真室川町観光振興計画の基本方針を以下のとおりとします。

(1) 観光資源の魅力向上

観光資源を魅力あるものにするためには、素材そのものの魅力だけでなく、それを編集・加工し旅行者の観光需要の変化に応じながら、資源の付加価値を高めることが必要です。そのため「真室川町ならではの」観光・交流資源を発掘し磨き上げるとともに、真室川町の強みである分野を重点として魅力向上に努め、ブランド力を向上させます。

(2) 特産品・真室川ブランドの振興

地域の象徴としての役割を担うのが、食・工芸品等の特産品であり、本町の魅力を伝える特徴的な産品が真室川ブランドです。特に、山菜やきのこ等の一次産品については流通量が不安定で需要に応じ切れない等の課題があることから、関係者が連携して生産振興に努めるとともに、効果的な情報発信に努め、認知度を向上させます。

(3) ニーズの把握と情報発信

個人型観光の増加に伴い、観光の目的も多様化していますので、観光資源の認知状況、満足度や意見についてアンケートの調査等を活用することにより、課題や取組みについて検討します。こうしたニーズの把握に努めながら、効果的な情報媒体の選択や情報発信の仕組みを構築していきます。

(4) 連携の体制づくり

魅力ある真室川町を全国にPRするのは「人」であり「組織」です。しかしなが

ら組織構成員の高齢化は進み、新規加入者も少ないという現状があります。そこで学生サークル等町外の団体との連携により、「観光に訪れる」だけでなく「運営に携わる・参画する」という新たな形での交流の創出と、持続可能な観光振興を目指します。

3 観光振興計画の目標数値

観光振興計画の推進に当たり、目標する指標を観光客数とします。

項目	現状 H30	目標 R4
年間観光客数 (県観光者数調査)	81.0 千人	100.0 千人

IV 主要施策の展開

1 観光資源の魅力向上

①観光交流イベントの充実

現在ある四季のイベントの継続実施により充実を図ります。

梅まつり	梅まつり・梅の里マラソン大会	春
甑山山開き	関係団体との共催、連携	春
梅の里溪流つり大会	まむろ川温泉梅里苑主催	春
真室川まつり	音頭パレード・花火大会 他	夏
真室川町アユ釣り大会	最上漁業協同組合主催	夏
真室川音頭全国大会	真室川音頭保存会共催	秋
大収穫祭	認定農業者連絡協議会主催	秋
真室川冬花火	冬季イベントとの連携	冬
ホワイトアスロン	関係団体との共催、連携	冬

②まむろ川温泉梅里苑を拠点とした交流推進

真室川町を代表する観光施設であるまむろ川温泉梅里苑については、観光拠点として利用者数の拡大を目指し、指定管理者との幅広い連携に取り組みます。

- ・ 宿泊者を対象として真室川音頭関連団体と連携した、真室川音頭イベントを開催します。
- ・ 山菜採りやスノーモバイル乗車体験等季節に応じた体験と宿泊を組み合わせた事業を展開します。
- ・ まむろ川温泉梅里苑施設の機能強化、周辺体験エリアの環境整備を図り、観光交流人口の拡大を図ります。

③「真室川音頭」発祥地としてのイメージアップ

真室川町が全国的な知名度を誇る「真室川音頭」の発祥地であることを活用し、他の観光資源と真室川音頭の組合せによって、真室川町の観光の魅力を高めます。

- ・ 全国の民謡愛好家から出場者を募り、真室川音頭全国大会を開催します。
- ・ 夏の一大イベント真室川まつりのメインとなる真室川音頭パレードをより充実させるため、課題等を整理しながら催行のあり方を検討します。
- ・ 真室川音頭にちなんだ、発祥地ならではの関係商品の開発を推奨します。

④観光資源の発掘・磨き上げ

新たな観光資源については、生活住民だけではその存在に気づきにくいことも多いため、町民以外の視点も取り入れた幅広い視野をもって発掘にあたり、観光メニューとしての開発や、情報発信により活用していくことを目指します。

- ・山岳、巨木、滝等現在活用している観光資源について、その歴史や町民とのかかわり合いを掘り下げ、付加価値を高め、更なる魅力化を目指します。
- ・縄文土偶や戊辰戦争跡地等歴史文化遺産を活用し、ターゲットを絞り込んだ観光メニューの造成を目指します。

⑤着地型観光の推進

真室川町にしかないものを目的として全国から観光客が訪れるように、着地型観光や各種ツーリズム事業を推進します。また、観光や物産に関連したものを特化・集中させ、交流の拠点となるような整備を行います。

- ・伝承野菜の収穫体験、真室川音頭パレードへの参加等、真室川町でしかできない体験を活かした着地型観光コースを造成し、誘客と知名度の向上を目指します。
- ・町民が、豊かな山岳資源や川等の真室川町の自然や歴史・文化の魅力を広く知り、新たな観光流動を喚起するための、学びと体験の機会の充実を図ります。

2 特産品・真室川ブランドの振興

①真室川町ならではの特産品開発の促進

山菜や伝承野菜等、真室川町にしかない魅力的な特産品の開発を推進します。

- ・特産品の加工技術や食品衛生、財務・資金、マーケティング等を学ぶセミナー開催情報を提供するなど研修機会の充実に努めます。
- ・食品加工設備導入経費等を助成するなどして特産品開発の支援に努めます。

②真室川ブランドのブランド力向上

各種物産展での販売やパンフレット、Webページ等による情報発信を充実させ、ブランド認定品の認知度向上につとめます。

- ・物販に係る旅費や販路拡大活動への助成等により、町物産の象徴とするブランド認定品の一層のPRに努めます。
- ・各種物産展等での販売により、関係都市と交流を深め、町の特産品を広くPRします。

古河市山菜まつり	茨城県古河市（ネーブルパーク）
古河関東ド・マンナカまつり	茨城県古河市

古河よかんべまつり	茨城県古河市
もがみ大産業まつり	新庄市ゆめりあ
山形県観光物産市	山形市七日町
山形銀行本店物産展	山形市七日町
東北のへそ観光まつり	仙台市勾当台公園
荒川区日暮里春・秋まつり	東京都荒川区日暮里駅前イベント広場
全国ふるさとまつり	神奈川県大和市大和駅前広場

3 ニーズの把握と情報発信

①ニーズの把握

真室川町にどのような人が訪れ、何を感じ、求めているのかを、様々な視点を取り入れながらニーズの把握に努めます。

- ・観光資源の認知状況、満足度や意見等について随時調査することにより、課題や効果的な取組み、情報発信について検討します。
- ・観光資源に関するニーズ調査（地元と来町者の意識のギャップ等）を実施します。

②情報発信

年齢、目的等に合わせた情報発信を行い、選ばれる観光地を目指します。

- ・発信力の高い「大使」によるブログやFacebook等SNSを利用して情報発信を強化します。
- ・パンフレット、メディア、インターネット媒体の活用により、真室川町の観光情報を発信します。

まつりリーフレット	梅まつり・真室川まつり
テレビ・ラジオ取材	各放送局の取材
音頭むすめ	イベントでのPR活動
東京アンテナショップ物産展	東京都中央区銀座 年2回
山形銀行本店ロビー展	山形市七日町
観光パンフレット	内容の改訂
外国語観光パンフレット	森の停車場に設置・国内外への発送
地域ポータルサイト	イベントの紹介 随時更新
真室川ブランドホームページ	認定品の紹介 随時更新
案内看板設置・更新	観光スポット周辺に設置及び老朽化した看板の更新
観光物産協会Facebook	イベントの紹介 随時更新

4 連携の体制づくり

①真室川町観光物産協会の組織強化

町外の団体と繋がりを持つことで、協力体制と新たな交流を築きます。

- ・姉妹都市や地域間交流を持つ都市について、町内イベントへの参加募集やイベント情報周知依頼等、いっそうの連携強化を目指します。
- ・山形大学をはじめとする近隣大学のボランティアサークル等、町外団体と連携体制を築くことにより、参加者側としてだけでなく、運営側としての関わり方を創出します。
- ・観光関連事業者等の接遇やサービス向上のため、研修制度の充実を図ります。

②歴史文化・スポーツ等町内関係団体との連携

町内の様々な団体との関係性を見直し、連携して新たな事業展開に取り組みます。

- ・協力体制の再構築により、既存イベントの拡充や魅力化を目指します。
- ・各種スポーツイベントについて、まむろ川温泉梅里苑の紹介や、季節に応じた真室川町の見どころ紹介など、町外参加者に対する観光案内の場となるような連携体制づくりを目指します。
- ・町内に存在する文化財を指定・未指定にかかわらず幅広く捉え、関連する団体等と協力し、価値を再評価しながら、活用の道を探ります。

③広域観光団体等との連携

広域で一体となって広い範囲へ向けた観光誘客事業を展開します。

- ・東北のへそ三県交流まつりや東北どまんなかサミットなど、東北圏域での連携活動により、自動車道等交通基盤の整備促進、東北圏域での交流の活性化を目指します。
- ・山形県内団体で連携し、山形空港、新庄駅、酒田港湾など主要交通施設でのキャンペーン実施や、首都圏旅行会社への商品PRを実施します。
- ・最上地域観光協議会を中心とした最上地域の広域連携により、関係市町村全ての観光素材を集約した観光ツアーの造成を目指します。

V 計画の実現のために

1 住民との連携と協働の強化

「住民が主役」の考え方を大切にしながら、町、住民、事業者等が農、商、工、観それぞれの得意分野を活かしあい、計画の推進力と効果を高める連携と協働を強化していきます。

(1) 住民の役割

- ・住民は町を知り、その魅力を支える真の主人公であり、旅行者と地域との交流促進に自発的に関わっていきます。
- ・観光まちづくり活動に積極的に参加し、地域づくりやまちづくり等真室川町の魅力向上に主体的に取り組んでいきます。
- ・第2次真室川町観光振興計画の推進にあたっては、住民一人ひとりが旅行者を温かく迎えらるよう、もてなし力の向上を図ります。

(2) 観光関連事業者の役割

- ・観光関連事業者は観光推進の主体的役割を担います。
- ・観光関連事業者間の連携・協力体制の充実を図るとともに、他産業との連携を進めていきます。
- ・第2次真室川町観光振興計画の推進にあたっては、時代のニーズに応えるメニューづくりや施設整備等を行うとともに、観光客に対するおもてなしの心を育む人材の確保・育成を進めていきます。

(3) 真室川町観光物産協会の役割

- ・真室川町観光物産協会は情報提供や誘客促進のためのPR活動等、観光振興事業を積極的に展開する主体となります。
- ・観光関連事業者等の接遇やサービス向上のため、研修制度の充実を図ります。第2次真室川町観光振興計画の推進にあたっては、具体的戦略に積極的に関与し、実施に向けて中心的な役割となります。

(4) 真室川町の役割

- ・真室川町は観光地の整備運営や情報の発信等、さまざまな取組みの実施主体に対するバックアップ等を行っていきます。
- ・町民参加の観光まちづくり活動を支援し、町民の観光に対する理解の促進を図ります。
- ・国や県、他市町村との連絡調整を図るとともに、近隣市町村等と連携した広域観光を推進していきます。
- ・第2次真室川町観光振興計画の推進にあたっては、真室川町観光物産協会等と連携し、具体的戦略を実施していきます。

2 具体的行動について

(1) 事業の具体的推進

- ・この計画を推進するために、真室川町観光物産協会の専門部会により、実施手法の検討とその実践を行います。「IV 主要施策の展開」を4点掲げているので、専門部会がそれぞれのテーマに沿って行動プログラムを策定し、町、住民、事業者等が一体となって事業を推進します。

(2) 進行管理の推進

- ・真室川町観光物産協会がこの計画の進行管理を行います。
PDCA（Plan計画→Do実行→Check評価→Action改善）サイクルを絶えず実践しながら、社会情勢の変化や新たな課題等に適切に対応し、計画を着実かつ的確に推進していきます。

(3) 観光戦略推進会議（仮称）の設置

- ・住民、住民団体、ボランティア団体、観光関連団体・事業者、真室川町、真室川町観光物産協会等で構成し、各々が連携して計画を推進する協力体制を強化します。

(4) 真室川町観光物産協会の機能強化

- ・真室川町全体の観光振興を図る総合的な組織を目指します。
- ・真室川町観光物産協会は、観光PRやイベント企画等に主体的に取り組めます。
- ・効果的な運営を行うために組織体制の強化・拡充が必要であり、法人化等を視野に入れた組織改革を検討します。

第2次真室川町観光振興計画関連
～滞在型「まむろがわツアー」モデルコース～(1泊2日、日帰り対応可能)

①まむろ川温泉梅里苑を核とした町巡りツアー【通年】要案内人&コーディネーター

～季節のイベントや観光資源を巡る～

春／梅まつり（又は梅の里マラソン）＋真室川公園（又は総合運動公園）散策＋森林トロッコ

夏／真室川まつり（パレード・神輿・動く灯ろう）＋歴史民俗資料館＋花火大会

秋／真室川音頭大会（又は大収穫祭）＋自然巡り（巨木・滝等）＋伝承野菜収穫体験（又は文化巡り/正源寺等）

冬／冬花火（又はホワイトアスロン）＋スノーモビル体験（又はわら細工体験）＋野々村ため池

②やまがた百名山巡りコース【初夏-初秋】要案内人&コーディネーター

～山岳・滝資源活用と森林文化の体験とまなび～

加無山散策(周辺巡り/三階滝・雄甕山散策・縄文のクロベ)＋梅里苑入浴・宿泊＋トロッコ列車＋つる細工体験
＋歴史民俗資料館＋商店街

※その他の巨木資源、森林資源も活用

③訪日外国人観光客向けコース・・・宿泊/梅里苑 or コテージ or 農家民宿

～古くからの文化と大自然の恵みを堪能する～

山岳・滝資源巡り（加無山・甕山・高坂の大カツラ/土倉の滝）＋地産食材による食事＋トロッコ列車・温泉
＋伝承野菜収穫体験＋文化巡り（正源寺・飛行場跡地・番楽・歴史民俗資料館）

④グリーンツーリズムコース【通年】要受入農家&コーディネーター・・・宿泊/梅里苑 or コテージ or 農家民宿

～季節の農業体験と、町内資源の組み合わせ～ 「グリーンツーリズム系」

春／森の家(芋植付)・山菜採取・田植え・各種伝承野菜農家

食材加工体験＋食事体験＋宿泊＋産直＋商店街＋資料館＋トレッキング

夏／各種伝承野菜農家・やな漁・養蜂

食材加工体験＋食事体験＋宿泊＋産直＋商店街＋資料館＋トレッキング(滝・湿原)

秋／稲刈り・森の家(芋収穫)・各種伝承野菜農家・きのこ採取・山ぶどう

食材加工体験＋食事体験＋宿泊＋産直＋商店街＋資料館＋トレッキング(紅葉狩)

冬／促成山菜栽培農家・各種伝承野菜農家・ため池(白鳥)

食材加工体験＋食事体験＋宿泊＋産直＋商店街＋資料館＋トレッキング(かんじき・スノーモビル)

⑤手わざ体験習得コース【通年】要案内人・指導者&コーディネーター・・・合宿企画としても有望

～生活文化・民俗習俗・伝統・手わざを知る～

手仕事／藁細工＋つる細工(1泊2日以上の合宿企画も可能)

食文化／保存食作り(干し柿・凍み大根・芋がら・塩蔵・乾物)＋加工体験＋食事

芸能／昔語り＋番楽＋童唄＋囃子＋民謡&舞踊(真室川音頭・あがらしやれ等)

(参考)

◆観光ボランティアガイド加盟団体(登録は3団体)

・巨木の森ガイド会・梅の里雪遊会・真室川町歴史研究会

計画策定の経過

令和2年1月14日	真室川町観光物産協会三役への計画主旨説明及び素案の検討
令和2年2月5日	真室川町観光物産協会への計画主旨説明及び意見聴取依頼
令和2年2月21日	真室川町観光物産協会からの意見聴取取りまとめ終了
令和2年3月3日	役場各課との調整、意見聴取依頼
令和2年3月23日	役場各課との調整、意見聴取取りまとめ終了
令和2年3月末	町民、事業者等への観光振興計画公表（町ホームページ）

山形県最上郡真室川町

〒999-5312 山形県最上郡真室川町大字新町127番5

電話 0233-62-2111

FAX 0233-62-2731